

第5回在り方検討委員会の結果（議事録）

日時：平成28年12月13日（水）18:30～

場所：いな穂

前回に引き続き、「今後の方向性と将来像」について意見を出し合った。前回はそれについて明確なものが出されなかったが、今回は、資料として年度末の役員会に提出する『尚恵学園の在り方について：報告書』案が示され、それにより方向性と将来像について活発な意見が交わされた。

これに関して、委員長より、通常の在り方委員会であればこの「今後の方向性と将来像」を打ち出すまでが委員会の役目であるが、この在り方委員会では、ひとつには委員が法人職員であること、もうひとつには今回の法人改革によって社会福祉法人内部に存在する社会福祉充実財産を平成29年度以降所轄庁の計画承認の下で即座に事業実施に移さなければならないこと理由によって、『事業の提案』までこの委員会でまとめる必要があることが説明された。

次回第6回委員会（1月）及び第7回（2月）で『事業の提案』を行うためには、今回の「今後の方向性と将来像」を明確にまとめる必要があるとの認識に立ち、本日はさまざまな意見が交わされた。

これら将来の方向性を考えるアプローチとして

- (1)当法人の設立の原点を探る方法
- (2)高齢化（利用者及び家族）等現実の問題に対応する方法の2方向から意見が出された。

(1)によるものとしては、

- ① 障害を持ったまたは持っていると思われる児童への対応
- ② 同様に、農村実習学園的な日中活動へのシフト
- ③ 積極的な集団参加と社会生活参加及び社会の連帯的機能の発揮
- ④ 親子、兄弟の計画的な宿泊の実施、家庭訓練
- ⑤ 歴史と伝統、実績に裏打ちされた尚恵学園の強みを生かして他の施設の手が届かないところ（特に入所支援）をしっかりとやる

(2)によるものとしては、

- ⑥ 高齢化、重度化への対応した日中活動支援等の充実

高齢化や「親亡き後」を見据えた、利用者と保護者が憩える宿泊を含めた機能の整備（旧成人寮跡地の活用）

- ⑦ 身近な地域行事への積極的参加や市民と一緒にした周辺環境整備
- ⑧ 移転先での成人寮をもっと盛り上げるための地域とのつながり方（まんだらパン工房のパンの販売ほか）。
- ⑨ 市民と交流する場を整備（障害者への理解と障害福祉の啓発を促進する思いを込めたコミュニケーションとアピール）
- ⑩ 高齢化のさらに先（10年以上先）の入所機能の再評価

次回第6回は1月第2水曜日を予定。

次回までに「今後の方向性と将来像」について上記の意見をもとに報告書案にとりまとめ、次回は事業提案について意見交換する予定。